

創刊10号発刊にあたって



日本産業洗浄協議会
会長 **土井 潤一**
Doi Junichi
(大和化学工業株式会社)
代表取締役

日本産業洗浄協会が、産業洗浄分野の最新技術情報を定期的に刊行する企画は2007年に生まれました。その結果、この「産業洗浄」誌が2008年1月に誕生し、以降年2回の刊行を継続し、このほど創刊10号記念特集号を皆様にお届けすることになりました。

現在、本誌は産業洗浄技術に特化した技術誌として日本唯一の定期刊行誌であり、読者の皆様方の期待と内容充実と継続発行の重責を痛感しております。

また、この間数多くの技術論文執筆者、編集者はもとより、お支えいただいた会員各位をはじめとする関係者に改めて深く感謝いたします。

いうまでもなく“洗浄に関する技術”は、“ものづくり基盤技術振興基本法”により“ものづくり基盤”にも深く関わる要素技術として、近年ますますその重要性が認識されてきております。

産洗協は、成層圏オゾン層破壊の防止を目標として1994年4月に、産業洗浄技術を提供する企業の有志が糾合して設立した組織で、20世紀末には初期の目的を達成致しました。しかし、その後も、新しい環境問題に取り組む社会的使命が次々と生まれ、地球温暖化防止、揮発性有機化合物（VOC）排出規制、化学物質のリスク削減アプローチへと、一貫して地球環境問題を主要なテーマとして取り組む異業種企業の集合体というユニークな組織として活動し、米国環境保護庁よりの「Best of the Best オゾン保護賞」受賞など、その存在感を関係者から評価いただいております。

2014年4月には創立20周年を迎えます。本年は、1994年設立時の精神を尊重し、時流の変化にも即応して安定化した組織として創立20周年を迎えるべく、今後10年間の中期計画づくりを目指す節目の時期となりました。

本年度の事業計画は、“産業洗浄関係者のネットワークづくりを目指して！”を前年度と同様引き続き採用しています。これは産洗協が産業洗浄分野の中核的位置を確保し、さらに業界関係にとどまらずユーザーの皆様にも参加いただく組織としての決意を表明しているものと考えています。

特に技術分野では、産業技術の集積、また、発信・普及のセンター機能を担っているとの自覚があります。

本誌「産業洗浄」は、洗浄技術相談や洗浄大学、通信講座、洗浄セミナーなどとともに、このセンター機能を担う重要な位置をもつと位置付けており、中期計画作りにおいても一層の強化策を検討いたします。

私は、この5月に会長職を拝命いたしました。前任の松浦会長および歴代の会長並びに役員の方々のご努力に敬意を表し、本誌の継続発行を始めとする諸行事の継続、さらに当協議会の20周年に向けての更なる発展に尽力致したく、関係者各位のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。